

福島の子どもたち、神奈川県を満喫

3月30日から4月2日にかけて、神奈川で「福島の子ども保養プロジェクト」が行なわれました。



イチゴ狩りを楽しむ子どもたち。



ボランティアが心をこめて調理を堪能。

この取り組みは「守りたい・子ども未来プロジェクト」※が主催、神奈川県ユニセフ協会、福島県生協連、福島県ユニセフ協会が共催し、行なわれたものです。協力団体として、神奈川県生協連、コープかながわなどが名を連ねています。

神奈川県生協連は、主に県内関係団体への声掛けを行ない、手を挙げてくれた関係団体と神奈川県ユニセフ協会と話し合いながらプログラムの詳細を詰め、当日に備えました。神奈川県生協連専務理事の丸山善弘さんは、「日頃から協力していただいている団体や施設にお声掛けをしたら、皆さんすぐに応えてくださいました。たくさんの団体にご協力いただき、この感謝の気持ちは、言葉では表現できません」と話していました。

今回参加した子どもは、福島市、郡山市、本宮市、いわき市からの計32人。また、郡山市と二本松市に住む短大生のボランティア2人と福島市の臨床心理士の成井香苗さん（福島県ユニセフ協会）が同行しサポートしました。

子どもたちは、イチゴ狩りやピザ作り、外遊び、バーベキューと、思いっきり体を動かし、のびのびと遊んでいました。

※神奈川県への避難者の支援を目的に設立された団体。

●地域の多くの団体が、保養プロジェクトに協力してくださいました

後援：秦野市

協力：秦野市子ども健康部子ども育成課・福祉部被災者支援課・農産課、秦野市水道局、表丹沢野外活動センター、秦野市観光協会、神奈川県生協連、秦野市農業協同組合、コープかながわ、医療生協かながわ、パルシステム神奈川ゆめコープ、NPO法人エコフォーラム22、秦野商工会議所・志津加、折り紙サークル、表丹沢菩提里山づくりの会、宝道、株式会社ヨネヤマ、伊藤ハム株式会社、株式会社不二家秦野工場、全農物流株式会社神奈川支店、石田ファーム工房とかわらボ、有限会社湘南車検センター、みのげマス釣りセンター

<参加者の声からみる、福島のいま>

・参加者の保護者（福島市）

学校の除染は進んでいるので、授業は外でできます。公園の除染も進んでいますが、その周囲は除染されていないこともあります。そう考えると、ちょっとためらってしまいます。こういった機会に、思いっきり遊ばせたいと思います。

・参加した11歳女子生徒（福島市）

私の学校は400人くらい生徒がいたけど、300人くらいに減りました。私も震災直後、京都に避難したけど、友達と離れるのが寂しくて、大泣きしてしまいました。友達は、マスクしている人もいるけど、してない人もいて、人それぞれです。このプロジェクトに4人の友達と参加しました。参加できて、うれしいです。

・福島県生協連専務理事 佐藤 一夫さん

全国の生協やユニセフ協会などから「福島の子ども保養プロジェクト」への支援が広がっています。このプロジェクトは、未就学児を対象に週末保養を中心に行なっていますが、長期休暇の際は、就学児を対象とした子どもだけの企画も行なっています。こうしたプランも親子にとってストレス解消のよい機会です。親から、あるいは子どもから、互いが解放される時間も必要なんですね。このプロジェクトが、家に閉じこもらざるを得ない親子に、外に出てもらう習慣づくりのきっかけとなればと思っています。